

中山間地域における農地実態把握のためのGIS利用

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

GIS（地理情報システム）を用い農地の利用状況をディスプレイ上に視覚的に表すことで、担い手農家が農地の規模や分散状況等の実態を把握し、受託の可否などの判断を行うことが可能になったので普及情報とする。

2 普及情報

- 1) 農地1筆毎の利用状況や、耕作者の意向など複数の情報をディスプレイ上に表す（図1）。
- 2) 利用可能な農地の実態（規模や分散状況）が明確になり、農地の流動化・産地ビジョン作成に利用出来る。
- 3) GISは、栽培履歴の表示、作付けされている品種や栽培方法、集落の意見の集約、水路の維持管理など多方面での利活用が可能である。

3 利活用の留意点

- 1) 農地の流動化等に利用する場合は、農地1筆毎の利用実態状況や意向調査を実施する必要がある（表1）。
- 2) 大量のデータの入力・追加は表計算ソフトを利用し、データが少量の時には地図上で直接入力することが出来る。
- 3) 今回利用したGISソフトは、中山間地域の直接支払制度が導入された際に、S町役場で購入したものである。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所情報経営部 電話022-383-8119）

4 背景となった主要な試験研究

平成16年4月作成

1) 研究課題名及び研究期間

中山間地域における地域複合アウトソーシングによる新たな担い手組織の定着条件の解明
平成14年度～平成16年度

2) 参考データ

表1 N集落における水田管理・所有に関する意向

		農家数	総面積(a)	一戸あたり面積(a)	専業農家面積(a)	専業農家一戸あたり面積(a)
所有水田		58	3381.9	58.3	530	106
耕作放棄地		11	182	16.5	0	0
転作作物作付け面積		23	701.6	30.5	315	105
水田売買希望	売却	2	63	31.5	0	0
	購入	0	0	0	0	0
水田借地希望	貸し付け	10	362.6	36.3	0	0
	借地	1	30	30.0	0	0
作業受委託希望	委託	8	289.8	36.2	50	50
	受託	0	0	0	0	0

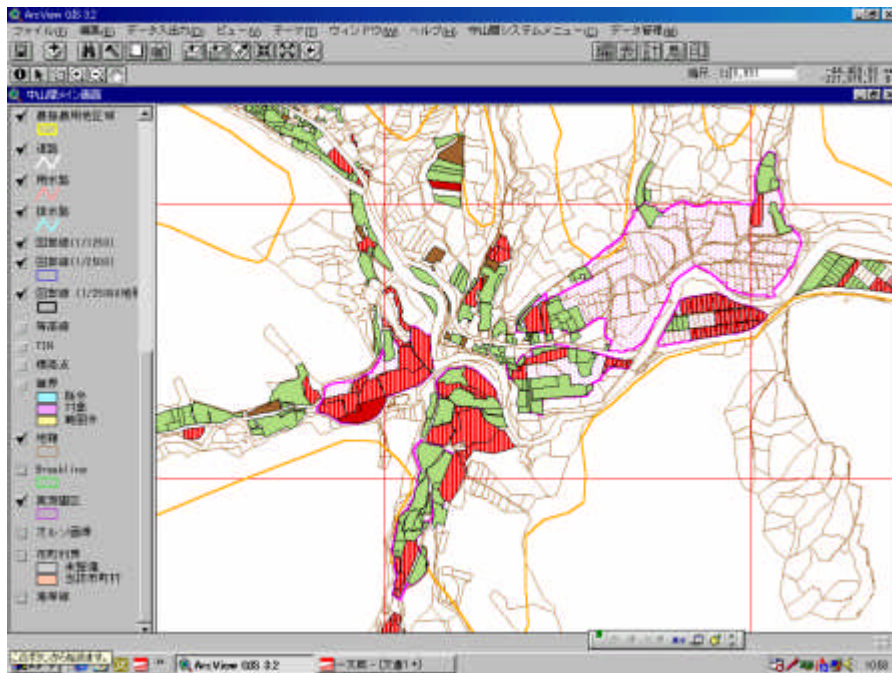


図1 一筆毎の意向調査のGIS表示例

3) 発表論文等

なし